

令和5年度第3回小中一貫教育推進委員会「小学校教育課程部会」

日 時 令和5年10月26日（木） 15：30～

場 所 砂川市立砂川小学校 2階会議室

開 会

1 部会長挨拶

2 協議事項

(1) 砂川市小学校「学習スタンダード（改訂版）」（案）について

(2) 保護者用『砂川市小学校「学習スタンダード」』（案）について

(3) 義務教育学校における旅行的行事について

(4) 年間指導計画等の作成に係る役割分担について

(5) その他

3 連絡事項

(1) 各学校との授業交流について

(2) その他

4 その他

閉 会

2 協議事項

(1) 砂川市小学校「学習スタンダード（改訂版）」（案）について【別紙1 P1~】

(2) 保護者用『砂川市小学校「学習スタンダード」』（案）について【別紙1 P4~】

(3) 義務教育学校における旅行的行事について

令和5年度 第2回小中一貫教育推進委員会「小学校教育課程部会」

令和5年8月25日（金）実施時の回収資料より（各校まとめ）

ア 修学旅行

学校	日程	行先
砂川小	6月15日（木）～ 6月16日（金） 【6月3週】	白老（ウポポイ） 壮瞥（有珠山ロープウェイ） 留寿都（ルスツリゾート） 北広島（エスコンフィールド北海道）
豊沼小	6月20日（火）～ 6月21日（水） 【6月4週】	白老（ウポポイ） 登別（マリンパークニクス） 留寿都（ルスツリゾート）
中央小	7月11日（火）～ 7月12日（水） 【7月2週】	小樽（製作体験、自主研修、昼食） 壮瞥（有珠山） 留寿都（ルスツリゾート）
空知太小	6月14日（水）～ 6月15日（木） 【6月3週】	ニセコ（ラフティング） 留寿都（ルスツリゾート） 小樽（自主研修、水族館）
北光小	6月14日（水）～ 6月15日（木） 【6月3週】	札幌 小樽 留寿都（ルスツリゾート）

学校	宿泊地	予算	こづかい	業者
砂川小	ルスツリゾートホテル			
豊沼小	ルスツリゾートホテル			
中央小	洞爺湖サンパレス			
空知太小	ルスツリゾートホテル			
北光小	ルスツリゾートホテル			

傾 向

- 時期的には、6月中旬から7月中旬にかけて実施、業者はおおむね2社
- 宿泊地の多くは「ルスツリゾートホテル」、予算は 円～ 円程度
- こづかいは幅があるものの、 円程度
- 「白老、壮瞥、留寿都」というルートと、「小樽、ニセコ、留寿都」というコースに大別

イ 宿泊学習

学校	日程	行先
砂川小	6月29日(木)～6月30日(金) 【6月5週】	旭川(サイパル・HBC) 砂川(ネイパル砂川・B&G)
豊沼小	6月14日(水)～6月15日(木) 【6月3週】	砂川(ネイパル砂川・B&G)
中央小	6月27日(火)～6月28日(水) 【6月5週】	砂川(ネイパル砂川・B&G・Shiro) ※ネイパル:マップリーディング・流しそうめん ※Shiro:工場見学
空知太小	6月21日(水)～6月22日(木) 【6月4週】	砂川(ネイパル砂川・B&G)
北光小	6月28日(水)～6月29日(木) 【6月5週】	赤平(空知単板工業) 砂川(ネイパル砂川・B&G)

学校	宿泊地	予算	こづかい	業者
砂川小	ネイパル砂川			
豊沼小	ネイパル砂川			
中央小	ネイパル砂川			
空知太小	ネイパル砂川			
北光小	ネイパル砂川			

傾 向

- 時期的には、6月中～下旬にかけて実施、バス業者は を使っている
- 宿泊地は「ネイパル砂川」、予算は体験学習費として 円～ 円程度
- こづかいは 円程度、自由時間のジュース代などとして設定している
- 「B&Gでのカヌー体験」のほか、「工場(施設)見学」か「ネイパルでの製作体験」が盛り込まれている

ウ 義務教育学校前期課程での旅行的行事の方向性について

基本的考え方

- ① 9年間で1つのつながりを見て行事の編成を考える必要があることから、パターンとしては、
A これまでの小中学校それぞれで行われていた旅行的行事を当該学年で実施

B 旅行的行事は8・9年生のみとする

C 回数なども考慮し、それ以外の学年（7年生：2ndステージ最高学年・9年生：3rdステージ最高学年など）で実施

などが考えられるが、特に旅行的行事は子供たちにとって学校外での集団生活（活動）を経験できたり、教師の手を離れて自主的な学びを行う機会が多く確保されたり、友達との新たな交流が生まれたりといった、日常の学校生活では得ることが難しい貴重な体験となる行事であるとともに、不登校の子供が学校復帰への足掛かりとする機会にもなりうること、そして何より保護者にとっても小学校と中学校での修学旅行を経験したことがスタンダードであることが想定されるため、統合にあたっては、「6年生」と「9年生」でそれぞれ修学旅行を実施することとしたい。

- ② 修学旅行実施に向けて、事前に子供たちの傾向や行動を把握したり、集団宿泊活動に当たってのマナーやスキルを習得させたりする観点から、それぞれの前年度となる「5年生」と「8年生」で、宿泊学習を実施することとしたい。
- ③ 旅行的行事に関わる取組の時数全てを「学校行事」とはせず、「総合的な学習の時間」での学習と関連させながら、適切な旅行のねらいを設定する。
- ④ 旅行的行事には、それぞれ（個人又はグループ）が設定した課題や当日までに調べた学習内容をさらに探求することができる場と時間を適切に設定した行程とする。
- ⑤ 行程や予算、こづかい額などは現在の各小学校のものを基本とし、統合前と後で大幅な違いが生じないように留意するとともに、教職員のノウハウの継承にも配慮する。

修学旅行

- ① 時期は、運動会後からの取組が可能となる「6月3週」の水・木曜とし、金曜日を回復休業日とする。
- ② 行程は「白老、壮瞥、留寿都+α」というルートとし、『ウポポイ』を「総合的な学習の時間」と関連付けた探求学習の場とする。
- ③ 宿泊先は「ルスツリゾートホテル」とする。
- ④ 予算は「 円～ 円程度」を見込む（見積合わせ）
- ⑤ お小遣いは「 円以内」とする。
- ⑥ 行程（案）は別紙2のとおり。

宿泊学習

- ① 時期は、運動会後からの取組が可能で、修学旅行と重ならない「6月4週」の水・木曜とし、金曜日を回復休業日とする。
- ② 1日目は『ネパール砂川』を中心とした諸活動を行い、「総合的な学習の時間」と関連付けた学習を展開する。

※午前は調理体験、午後からは「北海道地域環境学習講座 e c o - アカデミア」（担当窓口:北海道環境生活部環境保全局環境政策課企画調整係）を活用した外部講師をお招きして講話をいただく。

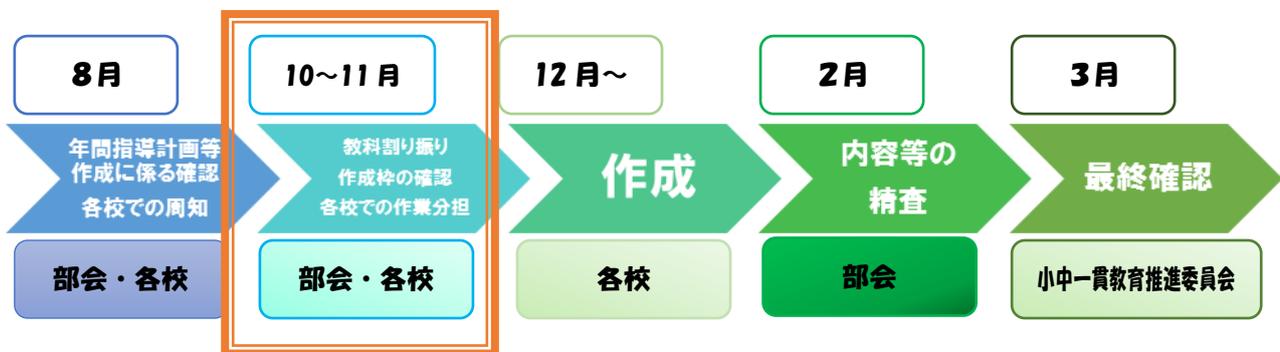
※講話後は、ネパールのプログラムをいくつか組み込む。

- ③ 2日目は『海洋センター』を利用し、カヌーやボートなどの体験活動を行う。
※水辺の危険があるため、事前指導及び引率教員による現場指導を徹底する
(人数が多くなることから、事故の防止を徹底する)
- ④ 宿泊先は「ネイパル砂川」とし、移動にはスクールバスを活用する。
- ⑤ 予算は「 円～ 円程度」でプログラムを組む。
- ⑥ お小遣いは「 円以内」とする。

見積りめのとり方については、今後より良い形を検討。

(4) 年間指導計画等の作成について

ア 作成スケジュール



イ 担当教科分担（案）

学 校	担当教科			自校にて作成	
砂川小	国語	書写	体育	特別活動	総合的な学習の時間 ※次回会議で原案提示
豊沼小	社会	音楽			
中央小	外国語	外国語活動	図画工作		
空知太小	算数	道徳	家庭		
北光小	理科	生活			

※ 教職員人数、専科配置状況等を勘案して分担

ウ 作成にあたっての留意点

- ① 次回会議で作成枠を確認する。
- ② 本市の小中一貫教育の推進を通して子どもたちに身に付けさせる「育成を目指す資質・能力」を踏まえて、各教科等の年間指導計画を作成する。

(5) その他

3 連絡事項

(1) 各学校との授業交流について ※事務局が把握しているものは記載済み

	日にち	時間	教科	備考
砂川小	9月 6日(水) 9月13日(水)	2時間目 5時間目	社会⑥ 外国語⑤	砂教研サークル
豊沼小				
中央小				
空知太小	10月18日(水) 11月 8日(水)	5時間目	国語⑥	その他10~11月に 3つの授業公開を予定
北光小	9月 1日(金) 11月 8日(水)	5時間目 5時間目	算数④⑤ 算数②③	へき複公開研

※取組は、「～ねばならぬ」ではなく、「～てもよい」という気軽な感覚で。

(2) その他

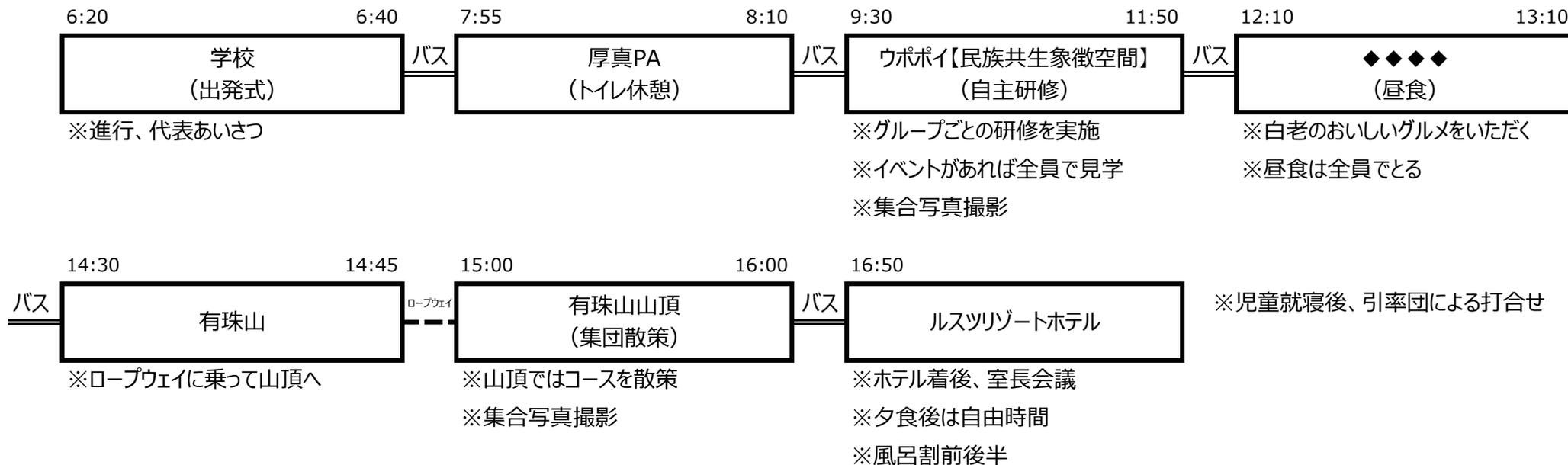
砂川市立義務教育学校（前期課程） 修学旅行行程

日 曜 令和8年6月17日（水）～18日（木）

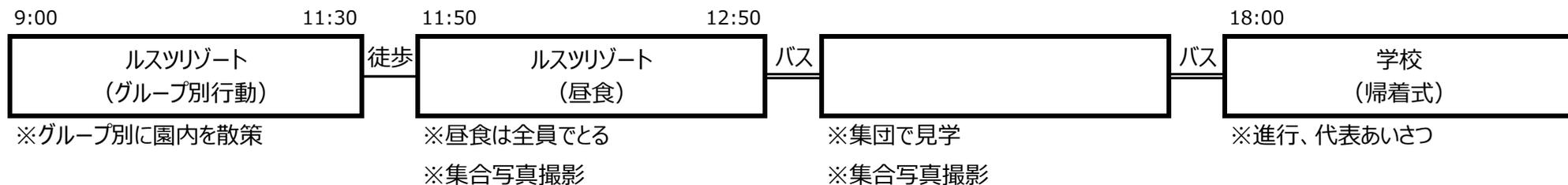
参加児童 98人 ※借り上げバス3台（学級ごと）

引率教員 9人 ※80人以上5名、3学級以上1名、特別支援3名

旅 程 1日目



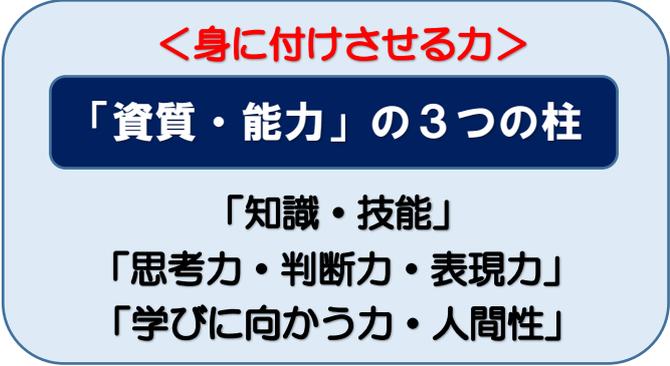
旅 程 2日目



砂川市小学校「学習スタンダード」

1 はじめに

学習指導要領で示されている「3つの柱」



砂川市小中一貫教育「全体構造図」による目指す児童像

目指す児童生徒像【確かな学力】
 よりよく考え、自ら進んで学習に取り組む児童生徒

2 学びの姿勢

(1) 学習のきまり

<授業前>

- ① 次の時間の準備をします。～教科書、ノート、筆記用具～机上整理→(2)
- ② 忘れ物をしたときは、休み時間のうちに先生に報告します。
- ③ チャイムが鳴り終わるまでに席に着きます。

<授業中>★正しい姿勢で座ります。

【聞く】

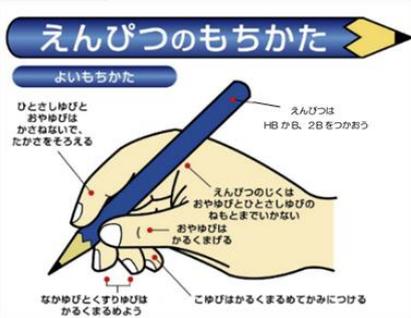
- ① 話す人を見ながら最後まで聞きます。
- ② 自分の考えと比べながら聞きます。
- ③ 聞き終わったら返事をします。
(同じです。いいです。他にあります。など)

【発表する】

- ① 名前を呼ばれたら相手に聞こえるように返事をします。
- ② みんなに聞こえる声の大きさを語尾まではっきり話します。
- ③ 順序よく、整理して伝えます。

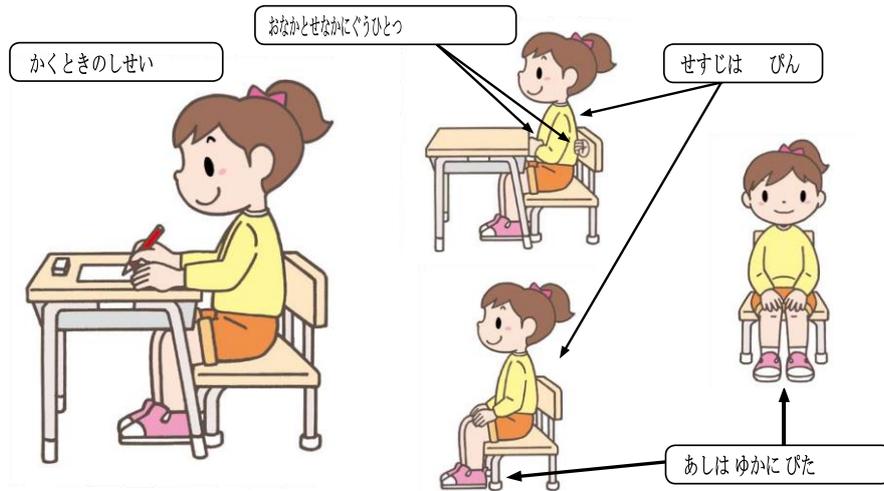
【書く】 ※「課題」は青、「まとめ」は赤

- ① 正しい姿勢で書きます。
- ② 正しい鉛筆の持ち方で書きます。
- ③ ていねいに字を書きます。



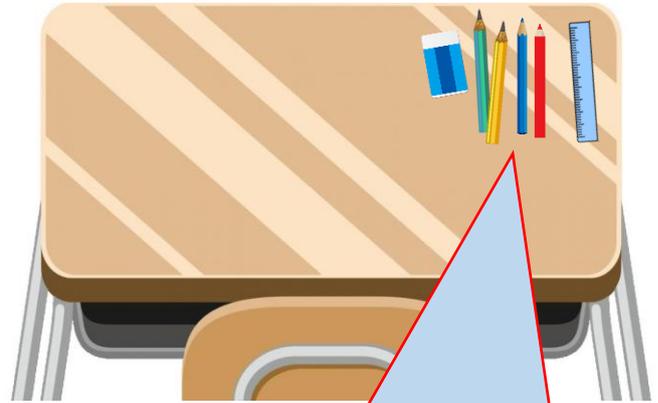
<授業後>★次の授業の準備をしてから、休み時間に入ります。

しせいの ものさし ぐう・ぴた・ぴん



(2) 机上の整理

鉛筆	1年 2B 2年 2BまたはB 3年~BまたはHB
色鉛筆 (青・赤)	1・2年は色鉛筆 3年~ ボールペン可
消しゴム	四角いもの
15cm定規	1年生から使用 折りたたみ式不可



(3) 筆入れに入れる物

- ①鉛筆5本程度
- ②色鉛筆（ボールペン）
- ③消しゴム
- ④定規（15cm）
- ⑤油性ネームペン（2年生以上）

机の上には、学習に集中できるように余計な物は置かない。

基本的には、【鉛筆・消しゴム・色鉛筆またはボールペン（青と赤）・定規】とし、柄はシンプルなもの。端から定規・鉛筆・消しゴムの順（またはその逆）に置くと鉛筆を落とすことが少なくなる。「置く順序」や「縦向き・横向き」「位置」などは、状況に応じて対応する。

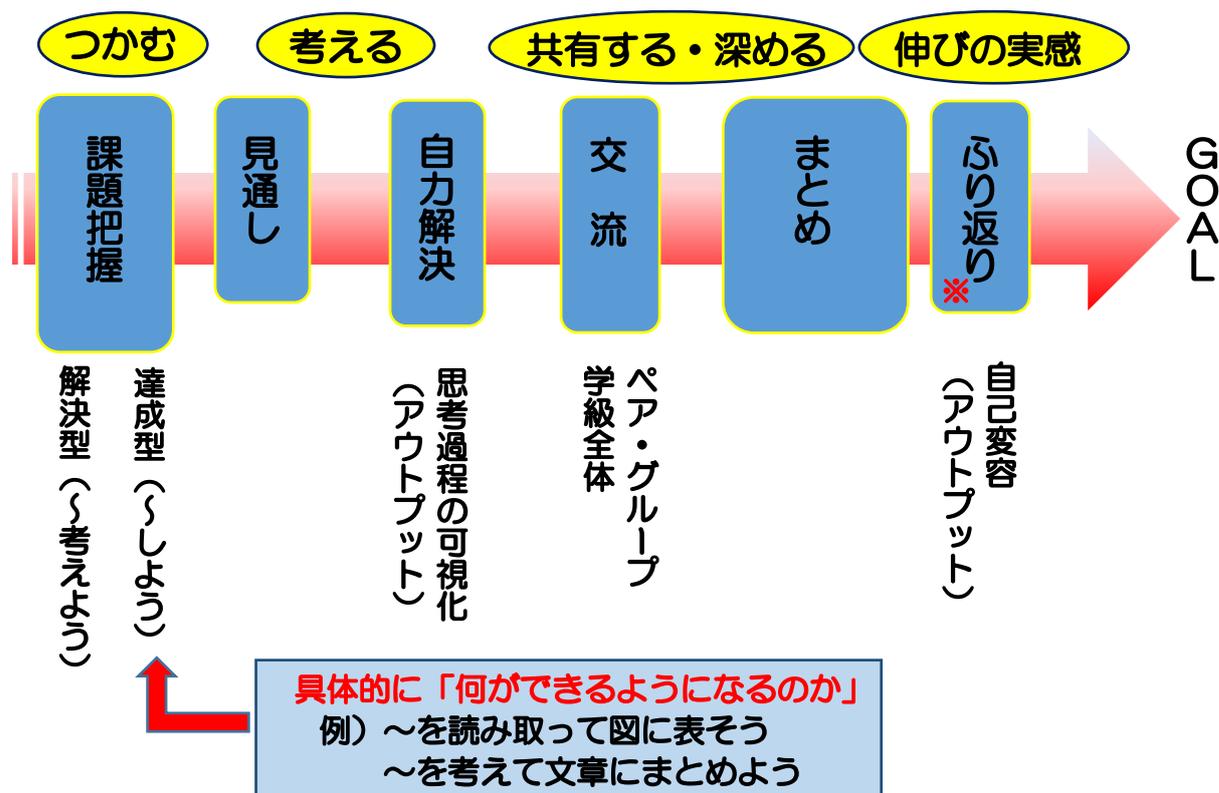
(5) 学習用ノート

学校では、ていねいな文字で学習内容をまとめるノート指導を充実させ、学力の定着を図るため、それぞれの教科で使用するノートを下表のとおりそろえます。

教科	1年生	2年生	3年生	4・5・6年生
国語	8マス 十字リーダー入	15マス 十字リーダー入	18マス 十字リーダー入	5ミリ方眼 十字リーダー入
算数	7マス 十字リーダー入	14マス 十字リーダー入	5ミリ方眼 十字リーダー入	
社会			5ミリ方眼 十字リーダー入	
理科			5ミリ方眼 十字リーダー入	
その他	連絡帳・自由帳（必要に応じて）		5ミリ方眼 十字リーダー入	

3 授業の流れ

(1) 1単位時間の授業展開



(2) 振り返り

子供自身に「振り返り」の意義を実感させ、授業を通して「振り返り」の習慣化を図る工夫、次時の授業への期待を高めることや家庭学習などへつなげることが必要です。

【「振り返り」の指導ポイント】

- ◆ 「振り返り」の目的を子供たちに伝えること。
- ◆ 「振り返り」の時間をしっかり確保し、習慣化すること。
- ◆ 「課題」と「振り返り」がつながるように、振り返る視点を児童生徒に示すこと。
- ◆ 「振り返り」につながる板書・ノートを工夫すること。

【振り返りの視点（例）】

習得	・学びの変容を振り返る	「〇〇が分かった。」「〇〇ができるようになった。」 【例】「登場人物の気持ちを読み取るには、その言葉や行動に着目すれば読み取れることが分かった。」
	・学びの過程や結果を振り返る	「〇〇することが分かった。」「〇〇することができるようになった。」 【例】「いくつかの資料を比較して読むことで、江戸時代の農民と武士の生活の様子が分かった。」
	・交流を振り返る	「〇〇な考え方もあるんだ。」「Aさんはなぜ、こう考えたのだろう。」（「問い」） 【例】「最初はAさんの考えに反対だったが、話し合いを通して、Aさんの考えが少し理解できるようになった。しかし、自分は〇〇なので~」 「（サーブは）上から打つ方が絶対いいと思っていたけれど、作戦タイムを通して、いろいろな打ち方を試してみようと思った。」
活用探究	・活用問題に取り組み ・他の単元・教科で活用する ・次につなげる	「〇〇でもできるかやってみよう。」「もっと〇〇について考えたい。」 「もし〇〇だったらどうかな。」（「問い」） 【例】「あさがおの育て方を勉強したので、今度は家でひまわりを育ててみたいと思いました。」 「お礼状の書き方を学んだので、職場体験でお世話になった職場の方にお礼状を書いてみたい。」

【保護者の皆様へ】 砂川市立小学校「学習スタンダード」

1. はじめに

砂川市の小学校では、市内統一した『学び方』（授業スタンダード）を設定し、どの学校でも同様の学びが進められることにより、5校が1校になった時の子どもたちの戸惑いを軽減させるとともに、市内全ての子どもたちに、学習指導要領で示されている3つの資質・能力を確実に身に付けさせ、「目指す児童生徒像」の実現に向けた小中一貫教育を推進します。

■■■■■■■■ 学習指導要領で示されている 「3つの柱」 ■■■■■■■■

＜すべての子供たちに身に付けさせる力＞

「資質・能力」の3つの柱

「知識・技能」

「思考力・判断力・表現力」

「学びに向かう力・人間性」

これまでの各教科等の「目標」「内容」の記述が、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の資質・能力の3つの柱で再整理されました。このことによって、学習を通して『何ができるようになるか』という「育成を目指す資質・能力」が明確になりました。

砂川市小中一貫教育「全体構造図」による目指す児童像

目指す児童生徒像【確かな学力】

よりよく考え、自ら進んで学習に取り組む児童生徒

2. 学びの約束

(1) 授業を受ける時の姿勢

背筋を伸ばして正しい姿勢を身に付けることには、「持続力」や「集中力」がつくなど、学習効率の向上につながる効果があります。



(2) 学習のきまり

＜授業前＞

- ① 次の時間の準備をします。～教科書、ノート、筆記用具 ⇒ (3) 机上の整理
- ② 忘れ物をしたときは、休み時間のうちに先生に報告します。
- ③ チャイムが鳴り終わるまでに席に着きます。

＜授業中＞★正しい姿勢で座ります。

【聞<】

- ① 話す人を見ながら最後まで聞きます。
- ② 自分の考えと比べながら聞きます。
- ③ 聞き終わったら返事をします。(同じです。いいです。他にあります。など)

【発表する】

- ① 名前を呼ばれたら相手に聞こえるように返事をします。
- ② みんなに聞こえる声の大きさを語尾まではっきり話します。
- ③ 順序よく、整理して伝えます。

【書<】 ※「課題」は青、「まとめ」は赤

- ① 正しい鉛筆の持ち方で書きます。
- ② 正しい姿勢で書きます。
- ③ ていねいに字を書きます。

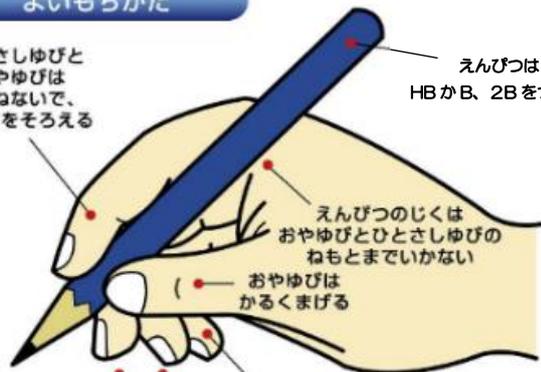


＜授業後＞★次の授業の準備をしてから、休み時間に入ります。

えんぴつのもちかた

よいもちかた

ひとさしゆびと
おやゆびは
かさねないで、
たかさをそろえる



えんぴつは
HBかB、2Bをつかおう

えんぴつのじくは
おやゆびとひとさしゆびの
ねもとまでいかない

おやゆびは
かるくまげる

なかゆびとくすりゆびは
かるくまるめよう

こゆびはかるくまるめてかみにつける

★ご家庭でもお声掛けを！★

間違った持ち方が定着してしまうと、正しい持ち方に矯正するのは難しくなります。

「それなりに字が書けるなら、持ち方は関係ないのでは？」と思う方もいらっしゃるかもしれませんが、えんぴつを正しく持たないと、疲れやすかったり上手に書けなかったりしてしまい、その結果、長く学習を続けられない、姿勢が悪い、集中力や勉強へのモチベーションが下がるなど、学力低下の原因につながることもあります。

(3) 机上の整理

鉛筆	1年 2B 2年 2BまたはB 3年～ BまたはHB
色鉛筆 (青・赤)	1・2年は色鉛筆 3年～ ボールペン可
消しゴム	四角いもの
15cm定規	1年生から使います 折りたたみ式は不可です



学習に集中できるように余計な物は置かず、「鉛筆・消しゴム・色鉛筆（ボールペン 青と赤）・定規」を基本とし、柄はシンプルなるものを推奨します。

(4) 筆入れに入れる物 **★お願いします★**

- 鉛筆5本程度
- 色鉛筆（ボールペン）
- 消しゴム
- 定規（15cm）
- 油性ネームペン（2年生以上）



分度器や定規は、目盛りの読みやすさの観点から、イラストのない透明でシンプルなものを用意してください。

(5) 学習用ノート

学校では、ていねいな文字で学習内容をまとめるノート指導を充実させ、学力の定着を図るため、それぞれの教科で使用するノートを下表のとおりそろえます。

教科	1年生	2年生	3年生	4・5・6年生
国語	8マス 十字リーダー入	15マス 十字リーダー入	18マス 十字リーダー入	5ミリ方眼 十字リーダー入
算数	7マス 十字リーダー入	14マス 十字リーダー入	5ミリ方眼	十字リーダー入
社会			5ミリ方眼	十字リーダー入
理科			5ミリ方眼	十字リーダー入
その他	連絡帳・自由帳（必要に応じて）		5ミリ方眼	十字リーダー入

(6) 学校に置いてよい物

学校では、子どもたちの道具の持ち運びに係る負担を軽減させるため、右の物を学校に置いてよいこととします。

★持ち物への記名を忘れずに！★

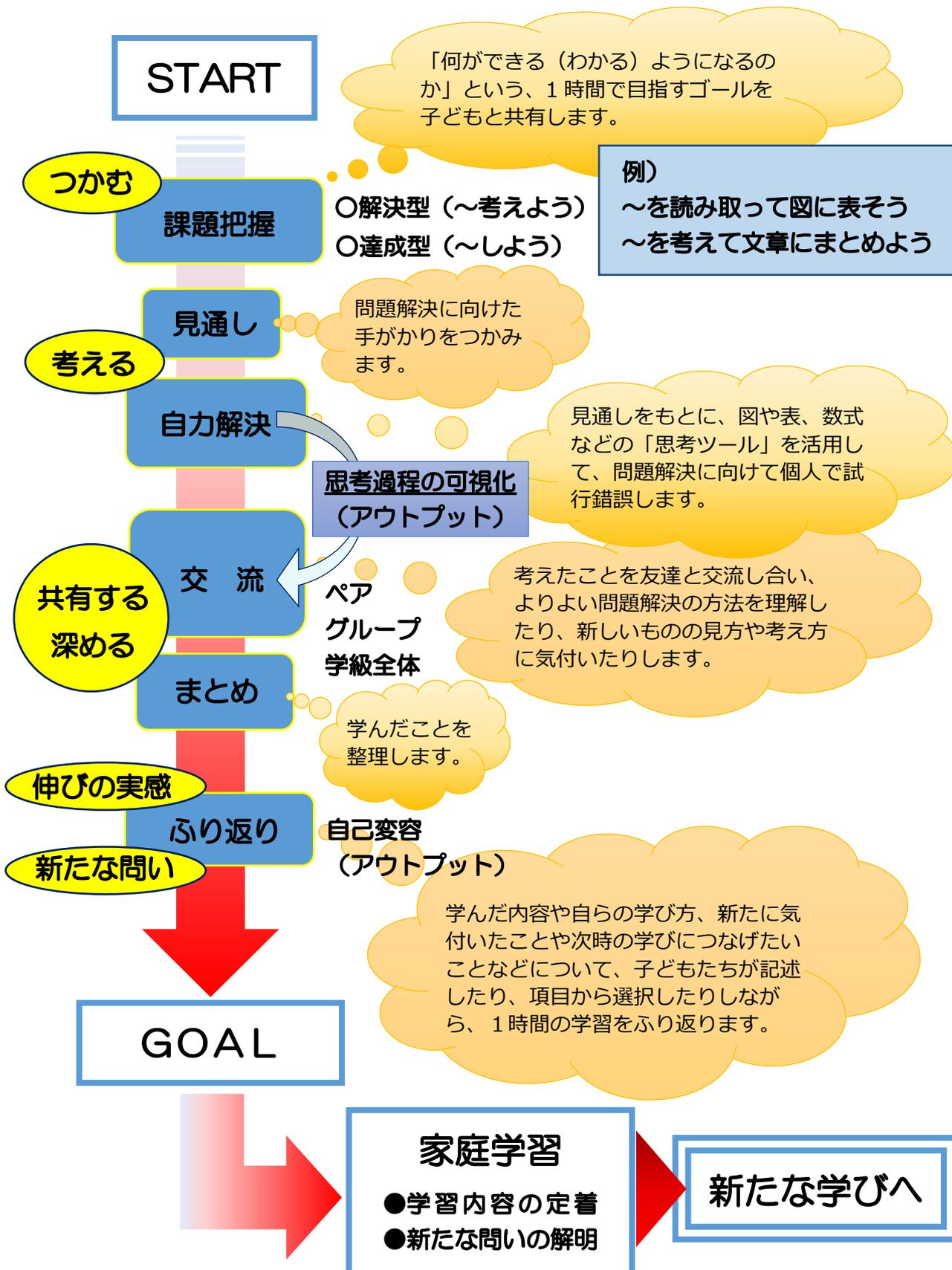


- 教科書 ■家庭学習で使わない教科書（5・6年生）
（書写・生活・図工・音楽・道徳・家庭・保健体育）
- リコーダー ○鍵盤ハーモニカ ○習字セット ○裁縫セット
- お道具袋 ○紅白帽子 ○とびなわ



3. 授業の流れ

砂川市内の小学校では、各教科の1 単位時間の授業について、以下のような流れを基本として行い、子どもたちの学びの力を高めます。



「学習スタンダード(改訂版)」(案)について

①学校においてよい教科書類について→改訂の必要なし

第2回の話し合い：主要4教科以外の教科書やドリル、ノートについては、現状に見ても全校「おいてよい」で統一できそう。

→「学習スタンダード」の記載のとおり統一する

第2回の話し合い：※ただし、タブレットの持ち帰りなどが日常化して負担軽減を更に目指すとすると、主要4教科も、今後は「必要なものを持って帰る」に統一できそう。

→R6当初「学習スタンダード」での統一には至らない

②ノートについて→「学習スタンダード」に統一を明記する

第2回の話し合い：「マス目」などをみると、その多くはすでに統一されているようだ。一部多少の違いはあるが、今一度一覧表などに整理すると、「それなら統一できる」まで導き出せそう。 (次回の会議で、再確認)。

→多少の違いを平準化し、統一する (※別添資料のとおり)

第2回の話し合い：※なお、「国語のノートの使い方」の指導面では、中学校に向けたノートの方向性の指導段階はいくつか考えられるが、「縦書きである」という指導は、統一。

→各方向は、「学習スタンダード」に追記するまでもなく統一した指導を進めている

③学習用具について→改訂の必要なし

第2回の話し合い：すでに、このとおり全校で統一している。

→「学習スタンダード」の記載のとおり統一する

④授業の流れについて→「(2)振り返り」の記述内容を改訂する

第2回の話し合い：この通りの内容で。「振り返り」の場面については、より具体を表せてもいいかも。(次回の会議で改訂案で示す)

→(記載の変更)「令和5年度教育長学校訪問授業改善の視点(P12-13)」をもとに、改める

(2) 振り返り

子供自身に「振り返り」の意義を実感させ、授業を通して「振り返り」の習慣化を図る工夫、次時の授業への期待を高めることや家庭学習などへつなげることが必要です。

【振り返りの視点（例）】

習得	・ 学びの変容を振り返る	「〇〇が分かった。」 「〇〇ができるようになった。」 【例】 「登場人物の気持ちを読み取るには、その言葉や行動に着目すれば読み取れることが分かった。」
	・ 学びの過程や結果を振り返る	「〇〇することが分かった。」 「〇〇することができるようになった。」 【例】 「いくつかの資料を比較して読むことで、江戸時代の農民と武士の生活の様子が分かった。」
	・ 交流を振り返る	「〇〇な考え方もあるんだ。」 「Aさんはなぜ、こう考えたのだろう。」（「問い」） 【例】 「最初はAさんの考えに反対だったが、話し合いを通して、Aさんの考えが少し理解できるようになった。しかし、自分は〇〇なので〜。」 「（サーブは）上から打つ方が絶対いいと思っていたけれど、作戦タイムを通して、いろいろな打ち方を試してみようと思った。」
活用 探究	・ 活用問題に取り組む ・ 他の単元・教科で活用する ・ 次につなげる	「〇〇でもできるかやってみよう。」 「もっと〇〇について考えたい。」 「もし〇〇だったらどうかな。」（「問い」） 【例】 「あさがおの育て方を勉強したので、今度は家でひまわりを育ててみたいと思いました。」 「お礼状の書き方を学んだので、職場体験でお世話になった職場の方にお礼状を書いてみたい。」

教科		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
国語	R6スタンダード	8マス十字リーダー入	15マス十字リーダー入	18マス十字リーダー入	5ミリ方眼十字リーダー入	5ミリ方眼十字リーダー入	5ミリ方眼十字リーダー入
		8マス 10マス 12マス	15マス	18マス ↓	5mm方眼 10mmマス 5mmリーダー入り	5mm方眼 10mmマス 5mmリーダー入り	5mm方眼 10mmマス 5mmリーダー入り
	豊沼			5ミリ方眼			
	砂川	8マス十字リーダー入	12マス十字リーダー入	15マス十字リーダー入	18マス十字リーダー入	5ミリ方眼十字リーダー入	5ミリ方眼十字リーダー入
	中央	6/8マスリーダー入	15マスリーダー入	18マスリーダー入	5mm方眼罫リーダー入	5mm方眼罫リーダー入	5mm方眼罫リーダー入
	北光	10マスリーダー入	15マスリーダー入り	18マス	5mm方眼罫リーダー入	5mm方眼罫リーダー入	5mm方眼罫リーダー入
	空知太	8マス十字リーダー入	15マス十字リーダー入	5ミリ方眼十字リーダー入り	5ミリ方眼十字リーダー入り	5ミリ方眼十字リーダー入り	5ミリ方眼十字リーダー入り
(漢字)	砂川		50字十字リーダー入	84字十字リーダー入	120字	120字	120字
算数	R6スタンダード	7マス十字リーダー入	14マス十字リーダー入	17マス十字リーダー入	5ミリ方眼十字リーダー入	5ミリ方眼十字リーダー入	5ミリ方眼十字リーダー入
		6マス 7マス 14マス	14マス 17マス	17マス ↓	5mm方眼 10mmマス 5mmリーダー入り	5mm方眼 10mmマス 5mmリーダー入り	5mm方眼 10mmマス 5mmリーダー入り
	豊沼			5ミリ方眼			
	砂川	6マス十字リーダー入	14マス十字リーダー入	17マス十字リーダー入	5ミリ方眼十字リーダー入	5ミリ方眼十字リーダー入	5ミリ方眼十字リーダー入
	中央	6マスリーダー入	14マス	5mm方眼罫リーダー入	5mm方眼罫リーダー入	5mm方眼罫リーダー入	5mm方眼罫リーダー入
	北光	7マスリーダー入り	14マスリーダー入り	5mm方眼罫リーダー入	5mm方眼罫リーダー入	5mm方眼罫リーダー入	5mm方眼罫リーダー入
	空知太	7マス十字リーダー入	17マス十字リーダー入	5ミリ方眼十字リーダー入り	5ミリ方眼十字リーダー入り	5ミリ方眼十字リーダー入り	5ミリ方眼十字リーダー入り
社会	R6スタンダード			5ミリ方眼十字リーダー入	5ミリ方眼十字リーダー入	5ミリ方眼十字リーダー入	5ミリ方眼十字リーダー入
				5mm方眼 10mmマス 5mmリーダー入り	5mm方眼 10mmマス 5mmリーダー入り	5mm方眼 10mmマス 5mmリーダー入り	5mm方眼 10mmマス 5mmリーダー入り
	豊沼						
	砂川			12ミリマス13×18	5ミリ方眼十字リーダー入	5ミリ方眼十字リーダー入	5ミリ方眼十字リーダー入
	中央			5mm方眼罫リーダー入	5mm方眼罫リーダー入	5mm方眼罫リーダー入	5mm方眼罫リーダー入
	北光			5mm方眼罫リーダー入	5mm方眼罫リーダー入	5mm方眼罫リーダー入	5mm方眼罫リーダー入
	空知太			5ミリ方眼十字リーダー入り	5ミリ方眼十字リーダー入り	5ミリ方眼十字リーダー入り	5ミリ方眼十字リーダー入り
理科	R6スタンダード			5ミリ方眼十字リーダー入	5ミリ方眼十字リーダー入	5ミリ方眼十字リーダー入	5ミリ方眼十字リーダー入
				5mm方眼 10mmマス 5mmリーダー入り	5mm方眼 10mmマス 5mmリーダー入り	5mm方眼 10mmマス 5mmリーダー入り	5mm方眼 10mmマス 5mmリーダー入り
	豊沼						
	砂川			12ミリマス13×18	5ミリ方眼十字リーダー入	5ミリ方眼十字リーダー入	5ミリ方眼十字リーダー入
	中央			5mm方眼罫リーダー入	5mm方眼罫リーダー入	5mm方眼罫リーダー入	5mm方眼罫リーダー入
	北光			5mm方眼罫リーダー入	5mm方眼罫リーダー入	5mm方眼罫リーダー入	5mm方眼罫リーダー入
	空知太			5ミリ方眼十字リーダー入り	5ミリ方眼十字リーダー入り	5ミリ方眼十字リーダー入り	5ミリ方眼十字リーダー入り
理科	R6スタンダード						
その他	豊沼	_____					
	砂川	_____					
	中央	_____					
	北光	_____					
	空知太	_____					

令和5年度

教育長学校訪問授業改善の視点

～主体的・対話的で深い学びを実現する

授業改善の視点～

砂川市教育委員会

1 主体的・対話的で深い学びとは

小学校学習指導要領解説総則編及び中学校学習指導要領解説総則編では、主体的・対話的で深い学びについて次のように解説しています。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の具体的な内容については、中央教育審議会答申において、以下の三つの視点に立った授業改善を行うことが示されています。教科等の特質を踏まえ、具体的な学習内容や児童生徒の状況等に応じて、これらの視点の具体的な内容を手掛かりに、質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにすることが求められています。

- ① 学ぶことに興味や関心をもち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているかという視点。
- ② 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているかという視点。
- ③ 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点。

2 主体的・対話的で深い学びの主語は『子供』

上記の文章は授業改善の視点として示されているものですが、主語が子供＝学習者になっています。中央教育審議会は論議の初期から従来の学習指導要領は「教員が何を教えるか」という観点を中心に組み立てられており、そのことが、教科等の縦割りを越えた指導改善の工夫や、指導の目的を「何を知っているか」とどまらず「何ができるようになるか」にまで発展させることを妨げているのではないかと考えていました。そこで答申では「まず学習する子供の視点に立ち、教育課程全体や各教科等の学びを通じて「何ができるようになるのか」という観点から、育成を目指す資質・能力を整理する必要があり、その上で、整理された資質・能力を育成するために「何を学ぶか」という必要な指導内容等を検討し、その内容を「どのように学ぶか」という子供たちの具体的な学びの姿を考えながら構成していく必要がある。」と述べています。子供が「どのように学ぶか」の姿として示されたのが「主体的・対話的で深い学び」となります。

3 授業改善を学習者の視点と授業者の視点から見る

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点として、学習者からの視点と授業者からの視点で見ると、主体的・対話的で深い学びを実現するために教師が何を組みればよいのかが明らかとなります。

授業改善に向けた「学習者」「授業者」それぞれの視点をまとめてみると、次ページの表で示したような視点があげられます。

	授業改善に向けた『学習者』の視点	授業改善に向けた『授業者』の視点
主体的な学び	<ul style="list-style-type: none"> ● 学ぶことに興味や関心をもつ ● 見通しをもつ ● 粘り強く取り組む ● 自己の学習を振り返って次につなげる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 既習事項を振り返る ● 具体物を提示して引きつける ● 子供が明らかにしたくなる学習課題を設定する ● 学習課題を解決する方向性について見通しをもたせる ● 子供が自分の考えをもつようにする ● 子供の思考を見守る ● 子供の思考に即して授業展開を考える ● 子供の考えを生かしてまとめる ● その日の学びを振り返る ● 新たな学びに目を向けさせる
対話的な学び	<ul style="list-style-type: none"> ● 子供同士の協働を通じ、自己の考えを広げ深める ● 教職員との対話を通じ、自己の考えを広げ深める ● 地域の人との対話を通じ、自己の考えを広げ深める ● 先哲の考え方を手掛かりに考える 	<ul style="list-style-type: none"> ● 思考を交流させる ● 交流を通じて思考を広げる ● 協働して問題解決する ● 板書や発問で教師が子供の学びを引き出す 
深い学び	<ul style="list-style-type: none"> ● 各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる ● 知識を相互に関連付けてより深く理解する ● 情報を精査して考えを形成する ● 問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう 	<ul style="list-style-type: none"> ● 資質・能力を焦点化する（付きたい力を明確にする） ● 単元や各授業の目標を把握する ● ねらいを達成した子供の姿を具体化する ● 教材の価値を把握する ● 単元及び各時間の計画を立てる ● 目標の達成状況を評価する

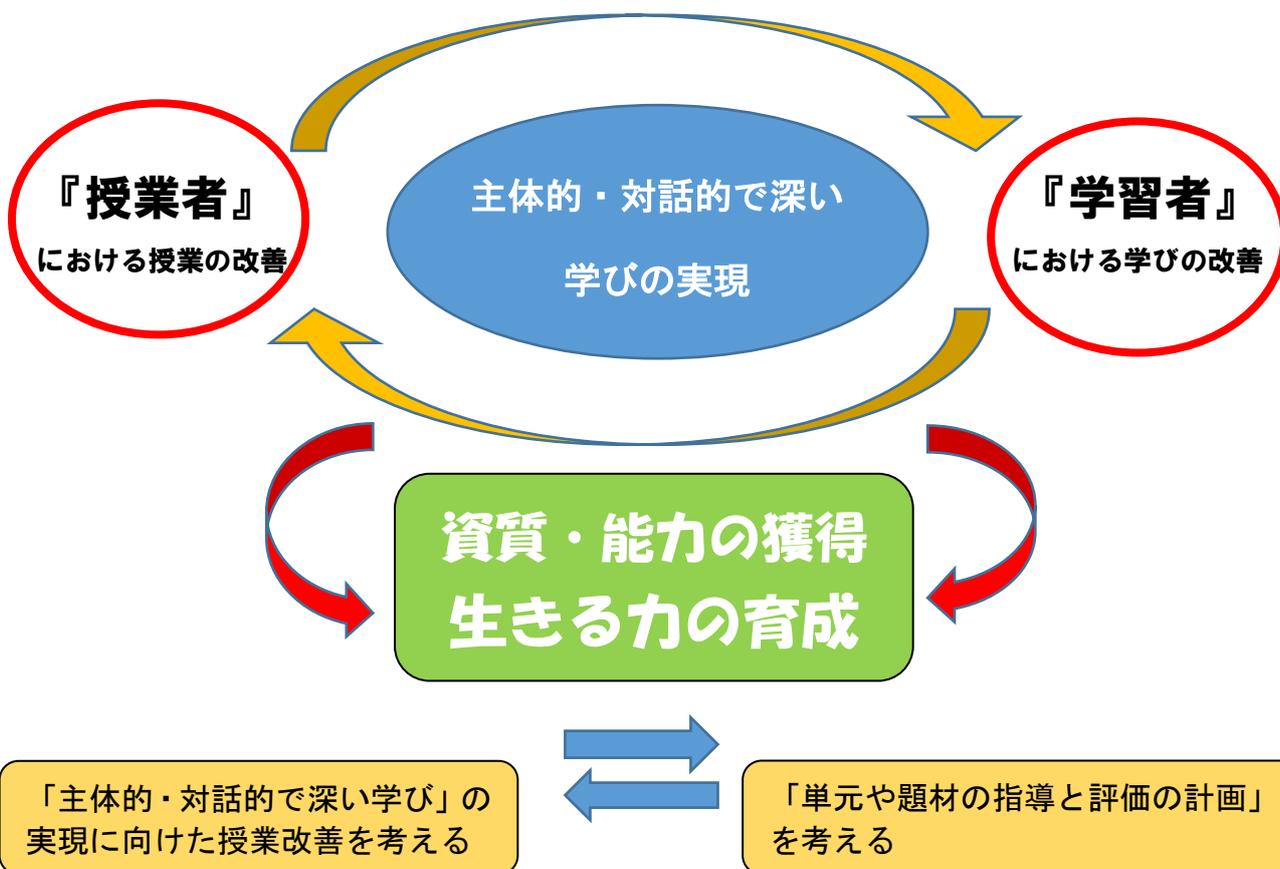
4 学習者の視点と授業者の視点の往還

上記の表は、主体的・対話的で深い学びを実現するためには表右側の授業者の視点による改善を行うだけでよいことを示しているではありません。例えば、授業の導入時に「具体物を提示して引きつける」及び「既習事項の振り返り」を行うことは多くの授業で意識されているし、授業研究の際にも議論されています。しかし、往々にしてこれらのことを実施していたらよしとする風潮があります。具体物を提示しても、それが子供の日常生活や問題関心につながらない場合は子供が「学ぶことに興味や関心をもつ」状態とはなりません。つまり、教師が「具体物を提示して引きつける」ことや「既習事項の振り返り」を通じて、子供が「学ぶことに興味や関心をもつ」ことが重要になります。

授業者の授業改善に向けた努力は、それ自体を目的とした場合には、子供の思考や関心から遊離した授業になる可能性があります。指導案の完成度は高いのに子供の学びが不十分であったりずれた方向に向かっている授業があります。逆に授業後の反省会で子供の学びに焦点を当てた議論をしていて、その授業でどのような力を身に付けさせようとしていたかの意識が教師間で共有できていないことがあります。授業者の視点と学習者の視点は、どちらか片方が重要というのではなく、双方を往還することが必要です。つまり、授業者による授業改善の視点と学習者における学びの改善の視点が往還することが主体的・対話的で深い学びの実現につながっていきます。

5 主体的・対話的で深い学びは単元などを通して実現

主体的・対話的で深い学びは、必ずしも1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではなく、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して、例えば、主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして、自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか、対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか、学びの深まりをつくり出すために、児童が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか、といった観点で授業改善を進めることが重要となります。つまり、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を考えることは、単元や題材など内容や時間のまとまりをどのように構成するかというデザインを考えることに他ならないのです。主体的・対話的で深い学びの実現は、バランスのとれた資質・能力の実現につながり、さらには生きる力を育むものとなります。



6 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進



一つ一つ知識が
つながり、
「わかった！」
「おもしろい！」
と思える授業に

見通しをもって、粘り強く取り
組む力が付く授業に

周りの人たちと共に考え、学び、新しい発見や
豊かな発想が生まれる授業に

自分の学びを振り返り、
次の学びや生活に生かす
力を育む授業に



- 児童生徒に求められる資質・能力を育むために、児童生徒や学校の実態、指導の内容に応じ、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点から授業改善を図ることが重要です。
- 繰り返しになりますが、主体的・対話的で深い学びは、必ずしも1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではありません。
- 単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して

- ・主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか
- ・対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか
- ・学びの深まりをつくり出すために、児童生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか

といった観点で授業改善を進めることが重要となります。

7 「学校としてのスタンダード」を意識した単元構想

- 各教科等において、3つの資質・能力をバランスよく育むためには、主体的・対話的で深い学びは欠かせません。
- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めるには「単元や題材の指導と評価の計画」が必要です。
- 学校としてのスタンダードは、1単位時間の授業改善の視点としてだけではなく、単元や題材を構想する上でも重要な視点となります。
- 本市では昨年度、砂川市小中一貫教育推進委員会 小学校教育課程部会において、砂川市小学校「学習スタンダード」を策定し、各校に周知が図られたところです。各学校では、自校の実態に応じて、この「学習スタンダード」を校内研究に関連付けたり、毎時の授業実践に結びつけたりするなどし、市内学校で段差のない授業改善を進めることが重要です。

砂川市小学校「学習スタンダード」

1. はじめに

学習指導要領で示されている「3つの柱」

＜身に付けさせる力＞

「資質・能力」の3つの柱

「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」



砂川市小中一貫教育「全体構造図」による目指す児童像

目指す児童生徒像【確かな学力】

よりよく考え、自ら進んで学習に取り組む児童生徒

2. 学びの姿勢

(1) 学習のきまり

<授業前>

- ① 次の時間の準備をします。～教科書、ノート、筆記用具～机上整理→(2)
- ② 忘れ物をしたときは、休み時間のうちに先生に報告します。
- ③ チャイムが鳴り終わるまでに席に着きます。

<授業中> ★正しい姿勢で座ります。

【聞く】

- ① 話す人を見ながら最後まで聞きます。
- ② 自分の考えと比べながら聞きます。
- ③ 聞き終わったら返事をします。(同じです。いいです。他にあります。など)

【発表する】

- ① 名前を呼ばれたら相手に聞こえるように返事をします。
- ② みんなに聞こえる声の大きさと語尾まではっきり話します。
- ③ 順序よく、整理して伝えます。

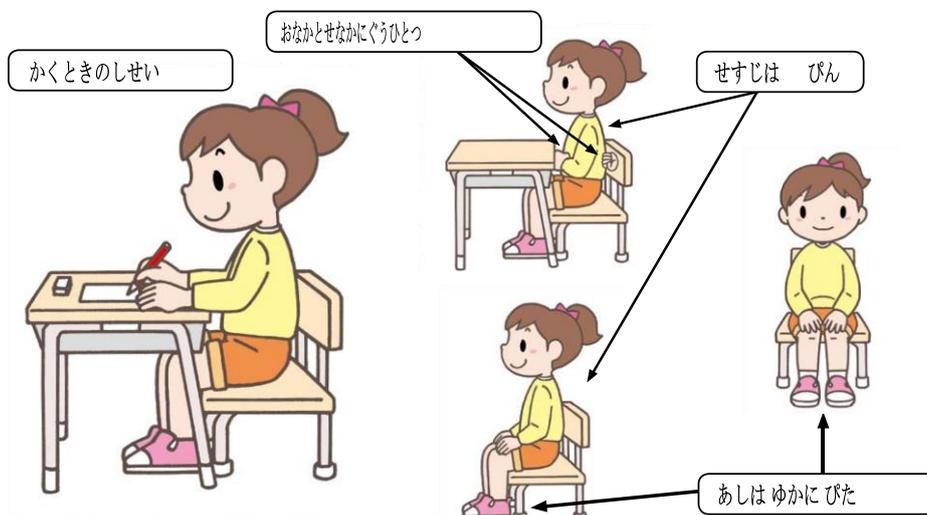
【書く】 ※「課題」は青、「まとめ」は赤

- ① 正しい鉛筆の持ち方で書きます。
- ② 正しい姿勢で書きます。
- ③ ていねいに字を書きます。



<授業後> ★次の授業の準備をしてから、休み時間に入ります。

しせいのものさしぐう・ぴた・ぴん。



(2) 机上の整理

鉛筆	1年 2B 2年 2BまたはB 3年～BまたはHB
色鉛筆 (青・赤)	1・2年は色鉛筆 3年～ ボールペン可
消しゴム	四角いもの
15cm定規	1年生から使用 折りたたみ式不可



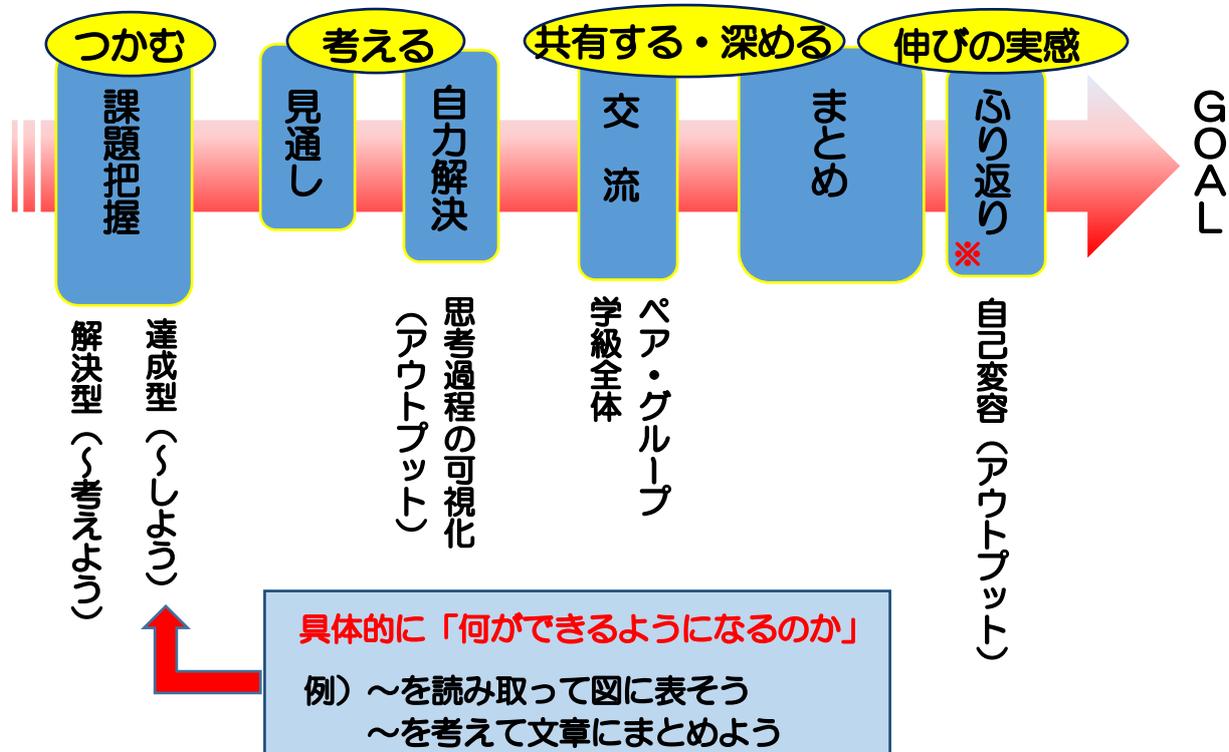
机の上には、学習に集中できるように余計な物は置かない。
 基本的には、【鉛筆・消しゴム・色鉛筆またはボールペン（青と赤）・定規】とし、柄はシンプルなもの。
 端から定規・鉛筆・消しゴムの順（またはその逆）に置くと鉛筆を落とすことが少なくなる。「置く順序」や「縦向き・横向き」「位置」などは、状況に応じて対応する。

(3) 筆入れに入れる物

- ①鉛筆5本程度
- ②色鉛筆（ボールペン）
- ③消しゴム
- ④定規（15cm）
- ⑤油性ネームペン（2年生以上）

3. 授業の流れ

(1) 1単位時間の授業展開



(2) 振り返り

「振り返り」は目的・発達段階によって様々なパターンが考えられる。また、1単位時間の中での位置づけ（タイムマネジメント）が難しい場合もある。
 よって、基本的には終末に位置付けるが、例外もあり得る。

目的別	発達段階別	手段
学んだ内容について 学び方 理解度（自己評価） 次時へのつながり	選択式（○の記入） 記述式	ノートへの書きこみ プリント クロームブック

※次時へのつながりを意識した振り返りは、家庭学習にもつなげることができる。

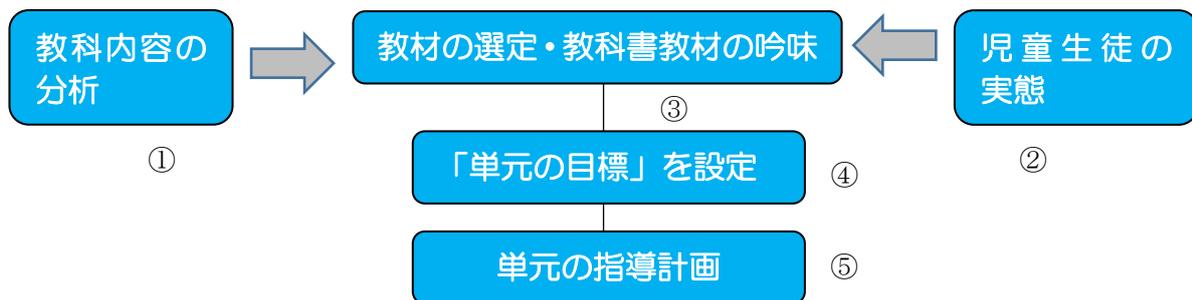
4. 今後の推進内容（R4からの申し送り事項）

（1）砂川市小学校「学習スタンダード」の位置づけ

- ①文字通り「規準」となるものである。そのため、各学校の実態や発達段階によって、味付けするものととらえる。
- ②各校の来年度以降の校内研修に盛り込む。
- ③来年度は「試行・検証」であるため、このスタンダードを実践しながら、加除修正し、令和6年度の「運用」につなげたい。
- ④当面は、「小学校」として取組を進めるが、小中連携の観点や義務教育学校の教育課程を含ませるようになると、今後、1～4年生を中心に考えて適用していくことが現実的である。

- 「課題」「まとめ」「振り返り」は、単元や題材の全体を構想する上でも重要な要素となります。例えば「課題」は単元や題材全体を見通して設定する場合があります。
- 「振り返り」は短時間で「毎時間行う振り返り」の他に、時間を十分にかける「単元や題材全体の振り返り」など、単元や題材を見通して位置付けることも考えられます。
- 生徒指導の3機能を意識した学習展開についても1単位時間のみで考えるのではなく、単元や題材等のまとまりを見通して、どの時間にどのように設定するのかを考えることが大切となります。

- ①単元の指導内容や育成すべき資質・能力を確認します。
- ②単元の指導内容に関わる子供の実態をつかみます。（良さ、成長や課題について）
- ③上記のことを踏まえ、教材を選んだり教科書の教材を吟味したりします。
- ④単元の目標を設定します。（育成すべき資質・能力の明確化）
- ⑤単元の指導と評価の計画を作成します。



単元の展開計画	単元の評価計画
<ul style="list-style-type: none"> ○育成すべき資質・能力が身に付くような単元を中心となる学習活動や言語活動を検討します。 ○単元全体に関わる「課題」や単元全体の「振り返り」等を検討します。 ○生徒指導の3機能のそれぞれを単元のどの場面に位置付けるかを検討します。 等 	<ul style="list-style-type: none"> ○単元の評価基準を設定します。 ○1単位時間ごとの評価基準を設定します。 ○評価する場面と方向を明確にします。 等

- ★本時は、3つの資質・能力のうち、何を育成する時間なのか、単元計画で確認します。
- ★前時までの子供の学習状況を踏まえ、本時の展開を考えます。

1 単位時間の授業づくり

- 本時のねらい及び具体的な評価基準を設定します。
- 本時の展開の概要を考え、「課題」「まとめ」「振り返り」を適切に設定します。
- 子供の思考を整理したり、思考を促したりする板書計画を立てます。
- 課題に対する子供の反応を想定し、補充発問や手立てを考えます。 等

8 1 単位時間の授業構想における留意事項

「課題」を設定する際

- 前触れもなく唐突に「課題」を位置付けるのではなく、前時を振り返ったり、疑問をもたせたりしながら「課題」に対し、自然に児童生徒の意識が向くように工夫します。
- 「課題」には、「既習事項とのズレ」「適度な壁」「素朴な驚きや疑問」等が大切です。
- 「課題」を設定したらそれに対応する「まとめ」を設定します。その際、問いと答えの関係が成立しているか、子供に分かる言葉なのか、時間的に無理がないかなどを吟味する必要があります。

「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」の4つの要素を適切に設定

- 「何を学ぶのかをつかめる板書」「学習内容の概要を振り返ることができる板書」等、子供が見た時にどこに何が書かれているのかが分かる板書を心がけます。
- 板書と子供のノートを一体化させ、子供が家庭学習でも授業の内容を思い起こすことができるようにします。

「板書の構造化」・「板書とノートの一体化」

- 学習のプロセスや成果を振り返る・・・何をしたか、何が大切か、何ができるようになったか等
- 過去の経験や学習と関連付ける・・・日常生活や既習事項とどんな関連があるか等
- 次回への学びへつなげる・・・もっと考えたいこと、調べたいことは何か等

「振り返り」・・・振り返りの内容を考えるときは現在・過去・未来という視点で

- 毎時間の授業で4つの要素が全て必要だというわけではありません。
- 例えば、単元を見通した「めあて」が設定されており、本時の授業が開始される前から子供が「めあて」を意識しているならば、確認するだけでよい場合があります。
- また、「めあて」を設定し、発問等によって追及する事柄が明確になれば、改めて「課題」として設定しなくてもよい場合もあります。

学びの主体者としての子供の育成

～「問い」が生まれる授業～

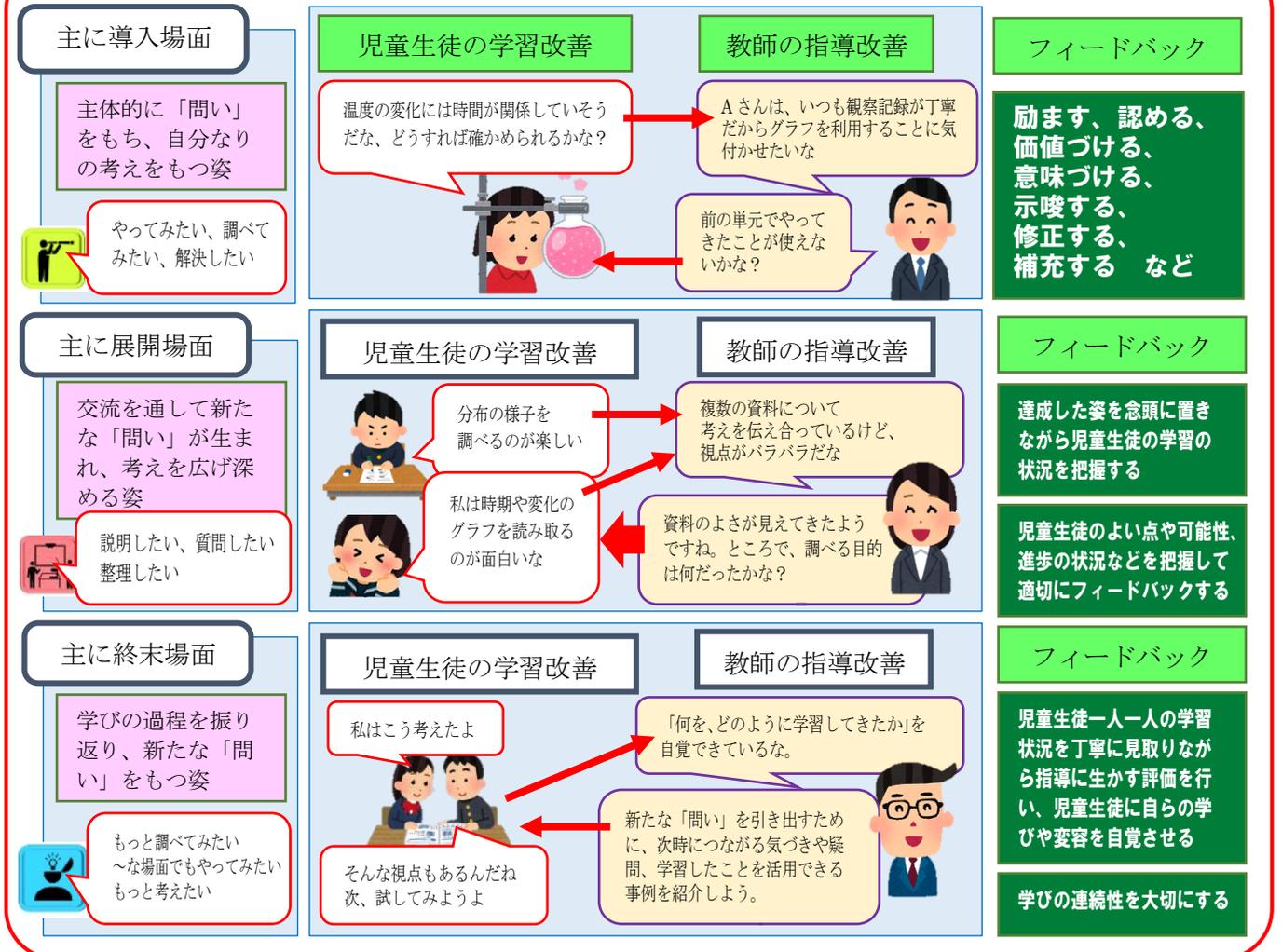
「自立した学習者」の育成

「主体的・対話的で深い学び」を実現する上で、学習者である児童生徒が「学ぶことに興味や関心をもつ」ことが重要であることは上述した通りです。児童生徒をそうした状態にさせることにより、一人一人が学びを通して「問い」をもち、主体的に学ぶ授業で身につけたことを、家庭学習に生かす。そして、家庭で学んだことを、授業に生かす、というような「授業と家庭学習が往還する学習サイクル」を構築することで、「自学自習力」が育まれていきます。そうした力を身に付けた児童生徒こそが、小中一貫教育全体構造図に示された目指す児童生徒像【確かな学力】『よりよく考え、自ら進んで学習に取り組む児童生徒』につながるといえます。

学習サイクルを回す「エンジン」としての「問い」が生まれる授業

学習サイクルを回し続けるエンジンとして、児童生徒の興味・関心を引きつけ、問題解決への意欲と創造性にあふれる、質の高い授業を行う必要があります。「問いが生まれる授業」は、「主体的・対話的で深い学び」を基本とし、学びが深まったことでまた新たな「問い」が生まれ、さらに探求したくなる授業です。そうした学びは「授業と家庭学習の往還」など、1単位時間の枠を越えた連続性のあるものであり、現在取組を進めている小中一貫教育推進委員会における部会で想定する授業像です。

組織体制の確立を通し、見取る視点・観点を揃えた評価



タイムマネジメント ～「まとめ」「振り返り」を確保するために～

授業開始・終了時刻の徹底

1 単位時間内で「課題提示」「まとめ」「振り返り」を確実に実施することは、学んだ内容の定着を図る上で、また「問い」が生まれる授業を実現する上で重要です。児童生徒が学習の価値を確認し、次の学びにつなげるための「問い」を引き出すためにも「まとめ」や「振り返り」を確実に実施する「完結型」の授業が大切です。限りある1 単位時間をコーディネートし、学習の効果を高めるためのタイムマネジメント力を身につけましょう。

こんな授業になっていませんか

△時間内に「まとめ」「振り返り」まで終わられない。

○『コンパクトでインパクトのある』導入を

「まとめ」「振り返り」の時間が確保できていない授業の多くは、導入の時間の長さに課題があります。児童生徒が思考する時間、「まとめ」「振り返り」の時間を確保するためにも、導入の長さを適切にし、コンパクトながらも児童生徒の「問い」を引き出し、主体性を高めるインパクトのある導入を心がけましょう。そして、思考する時間を確保し、「まとめ」「振り返り」を確実に実施する「完結型」の授業を展開しましょう。

○『ラスト10分の充実』を意識する

導入のみならず、「展開」の内容が大盛りになっていることも、「まとめ」「振り返り」の時間が確保できない要因の一つです。授業構想の段階で、まずは逆算的に「まとめ」「振り返り」の具体的内容と時間を確保してから「導入・展開」を考えていく「ラスト10分の充実」を意識することが大切です。

○タイムマネジメントにおける自分自身の課題を明確にする

事前の計画どおり授業が進行するとは限りません。児童生徒の実態をもとに、反応を予測することで、予想外の展開に対して柔軟に対応できるようになります。また、自身の授業をビデオで記録したり、同僚の先生に授業観察をしてもらったりするなど、どの場面で想定していたよりも時間を要しているのか、客観的に自分の授業を振り返り、課題を確認しましょう。

簡潔な説明と的確な指示

「問い」が生まれる授業の実現に向けては、児童生徒が主体となって思考する場面を確保することが重要です。そのためにも、教師の説明や指示を分かりやすく簡潔にしていく必要があります。

こんな授業になっていませんか

△教師の長い話や説明で、児童生徒が受け身の学習姿勢になっている。

△指示が曖昧であったり、思いつきで何度も指示したりを繰り返すことがある。

○教師の話や説明を簡潔にし、児童生徒が思考・表現する時間を確保する

教師の長い話や説明は児童生徒の集中力を低下させるだけでなく、児童生徒が思考・表現する時間を確保することができなくなり、学習意欲の低下につながります。「問い」が生まれる授業を実現させるために、教師の説明の時間をできるだけ簡潔にし、思考・表現の時間を確保しましょう。

○児童生徒の活動を円滑に進めるための的確で具体的な指示

曖昧で何度も繰り返される指示は児童生徒の学習を混乱させます。また、思考に集中している最中に出される指示や発問は思考の妨げになります。「問い」が生まれる授業を目指すために、説明や指示をする場面と、児童生徒が活動する場面を明確にし、学習活動を円滑に進めるための的確な指示を心がけましょう。

課題・まとめ・振り返り ～「問い」が生まれる授業の骨子となるもの～

身に付けさせたい力を踏まえた「課題」の設定・提示

「問い」が生まれる授業の実現には、導入段階における「課題」の設定や終末における「まとめ」「振り返り」が重要になってきます。その機能や重要性を十分理解し、確実に実施するとともに、常に工夫を凝らして実践を積み重ねていきましょう。

こんな授業になっていませんか

△指導書の「ねらい」がそのまま「課題」として示されている。

△「課題」が教師から一方的に示されることがある。

○「課題」を提示する目的と機能

児童生徒が学習の見通しをもって授業に臨み、主体的に学習していくためにも「課題」の設定は重要です。身に付けさせたい力（指導事項）を踏まえた「課題」の設定を行きましょう。しかし、必ずしも「課題」にふさわしい内容になっていない場合があります。例えば、指導書の「ねらい」がそのまま「課題」として提示されていたり、児童生徒からの「問い」や「つぶやき」を生かすことなく、教師から一方的に「課題」が示されたりする場合があります。以下の点について留意し、「課題」の質を高めていきましょう。

【「課題」の設定】

- ◆課題は、学習のねらいに迫る内容がふさわしい。
- ◆課題は、思考が焦点化される内容がふさわしい。
- ◆課題は、子供の「問い」やつぶやきをもとに表現される文言がふさわしい。
- ◆課題は、仲間との対話を通して解決が図れる内容がふさわしい。
- ◆課題は、授業によっては導入以外で提示されることがある。

【「課題」の例】

指導書等に書かれたねらいがそのまま板書された場合

話す相手や状況に応じて、聞き手にとっての分かりやすい話し方について考え、分かりやすく話すことができる。（中学校国語）

児童生徒の視点に立った「課題」の場合

分かりやすい伝え方のコツを考え、相手に分かりやすく説明しよう。（中学校国語）

「課題」に正対した「まとめ」、「振り返り」の確実な実施

授業の終末における「まとめ」「振り返り」については、児童生徒が授業で何がわかったか、何ができるようになったかなどを確認するとともに、自身の学びの過程を振り返り、学習の価値を自覚させることで、新たな「問い」が生み出されるなど、大変重要な場面だと考えています。授業の終末の充実に向けて、「まとめ」「振り返り」について日々工夫を重ねながら実践していきましょう。

こんな授業になっていませんか

△「まとめ」が「課題」に正対していない場合がある。

△「まとめ」「振り返り」の重要性について認識が十分ではないことがある。また、タイムマネジメントへの意識が薄く、「時間がある時に行えばいい」という意識に止まっている場合がある。

○「まとめ」のポイント

「まとめ」は本時の学習課題に対して、今日の授業で「何を学んだか」を明確にする活動です。そのため「まとめ」と「課題」は基本的には正対することが大切です。よりよい「まとめ」にするためにも板書された内容や児童生徒の言葉を生かして「まとめ」を行います。授業において「まとめ」につながる児童生徒の考えや気づきを引き出す発問をしたり、引き出した考えなどを板書したりするなど、指導の工夫が大切です。

【「まとめ」について】

- ◆まとめは、基本的に「振り返り」と分けて考える。
- ◆まとめは、基本的に「課題」に正対する内容がふさわしい。
- ◆まとめは、子供の声をもとにまとめることがふさわしい。
- ◆まとめは、授業によっては「振り返り」の中で行う場合がある

【「課題」に正対した「まとめ」(例)】



○「振り返り」の意義と指導のポイント

授業を通して、児童生徒に「何が分かるようになったのか」「どんな変容があったのか」「もっと考えたいこと」などについて自覚させるためには「振り返り」活動を充実させることが大切です。そのためには子供自身に「振り返り」の意義を実感させ、授業を通して「振り返り」の習慣化を図る工夫、次時の授業への期待を高めることや家庭学習などへつなげることが必要です。

【小学校学習指導要領総則 第1章第3の1の(4)】

児童が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を、計画的に取り入れるよう工夫すること。(※中学校学習指導要領も同様)

【「振り返り」の意義】

- ◆ 解決方法や学んだことに自信をもったり、曖昧な点が明確になったりする。
- ◆ 自分の学び方の確立につながる。
- ◆ 考え方や知識・技能等の学習内容の定着が図られる。
- ◆ 学習内容の応用・発展の機会となる。
- ◆ 新たな「問い」をもつ機会となる。

【「振り返り」の指導ポイント】

- ◆ 「振り返り」の目的を子供たちに伝えること。
- ◆ 「振り返り」の時間をしっかり確保し、習慣化すること。
- ◆ 「課題」と「振り返り」がつながるように、振り返る視点を見習生に示すこと。
- ◆ 「振り返り」につながる板書・ノートを工夫すること。

【振り返りの視点（例）】

習得	・ 学びの変容を振り返る	「〇〇が分かった。」 「〇〇ができるようになった。」 【例】 「登場人物の気持ちを読み取るには、その言葉や行動に着目すれば読み取れることが分かった。」
	・ 学びの過程や結果を振り返る	「〇〇することが分かった。」 「〇〇することができるようになった。」 【例】 「いくつかの資料を比較して読むことで、江戸時代の農民と武士の生活の様子が分かった。」
	・ 交流を振り返る	「〇〇な考え方もあるんだ。」 「Aさんはなぜ、こう考えたのだろう。」（「問い」） 【例】 「最初はAさんの考えに反対だったが、話し合いを通して、Aさんの考えが少し理解できるようになった。しかし、自分は〇〇なので〜。」 「（サーブは）上から打つ方が絶対いいと思っていたけれど、作戦タイムを通して、いろいろな打ち方を試してみようと思った。」
活用探究	・ 活用問題に取り組む ・ 他の単元・教科で活用する ・ 次につなげる	「〇〇でもできるかやってみよう。」 「もっと〇〇について考えたい。」 「もし〇〇だったらどうかな。」（「問い」） 【例】 「あさがおの育て方を勉強したので、今度は家でひまわりを育ててみたいと思いました。」 「お礼状の書き方を学んだので、職場体験でお世話になった職場の方にお礼状を書いてみたい。」

思考力・判断力・表現力等 ～ 思考を広げたり深めたりするために～

課題について自分自身の考えをもつ時間の確保

児童生徒が自分自身の思いや考えをもたずに授業が進行すると、主体性は発揮されず、「問い」は生まれにくくなります。児童生徒が主体的に学習する授業を展開するために、それぞれの思いや考えをしっかりとらせる時間を確保しましょう。学習の効果を高めるタイムマネジメント力を身につけましょう。

こんな授業になっていませんか

△ 課題に対する個々の考えをもたせる時間が確保されないまま授業が進行している。

○一人で考える時間が「問い」の源泉

学習対象が魅力的で学習意欲を喚起させるものであったり、課題を解決する必然性が児童生徒の中に生まれやすいような教材であると、児童生徒の主体性が引き出されます。しかし、こうした魅力的な学習課題が設定できたとしても、児童生徒に自分自身の考えをもたせないまま授業を展開していくと、児童生徒は次第に意欲や主体性を失っていきます。

個々の児童生徒が「私はこう考えた」「私はこの方法がいいと思う」など自身の考えをもち、それらを伝えることで「みんなはどう考えたのかな」と友達の意見に意識が向きます。さらに、友達の考えによって自身の考えが揺さぶられたり、新たな「問い」が生まれやすくなります。

「問い」の源泉は、自分の思いや考えを「一人で考える時間」にあるといえます。

学習のねらいの達成に向けた交流場面の設定

学習のねらいの達成に向けた思考力・判断力・表現力等を育むためには、自分の思いや考えを他者に説明したり、話し合うことを通してよりよい考えに導いたりするなど、対話的な活動の一層の充実が求められます。しかし、交流させれば学習のねらいが達成できるというものではありません。以下の課題点とその解決の手立てについて工夫し実践を積み上げていきましょう。

こんな授業になっていませんか

△ ペアやグループで交流させることが目的化している場合がある。

△ 交流が、個々の一方的な発表にとどまり、思考が練られる対話になっていない。

○ねらいに即した交流場面の設定

ペアやグループでの交流は、授業のねらいに即して行われるものですが、それ自体が目的化している授業も少なくありません。

交流場面を設定する際は、児童生徒が「友達と協力したい」「話し合うことで解決の見通しがもてよう」といった、交流することの必然性を引き出す手立てを工夫し、授業のねらいに即した場面を設定しましょう。

○ペア・グループにおける対話の充実に向けて

「問い」が生まれる授業において、対話的な活動の充実は欠かせません。しかし、ペア・グループでの対話の場面で、児童生徒が自分の意見や感想を述べたり、説明したりすることに終始し、双方向の対話になっていない場合も見受けられます。こうした課題は、個々の児童生徒が自身の思いや考えを伝えることのみで意識がおかれ、友達の話を傾聴するという、対話において最も大切な態度が育成されていないことも要因の一つです。

学びが深まる対話にするためには、対話を通して解決を図りたいと思う課題が設定されていることが必要です。さらに、他者の話をじっくり聴いて共感したり、疑問点について質問したりするなどの聞き手としての能力を育てることを意識しながら日常的に指導していくことも必要です。

評価・改善

～個に応じた指導や授業改善等に生かすために～

授業の展開に生かす評価（児童生徒の学習状況の見取り）

教師は意識的にまたは無意識のうちに1単位時間の授業の中で、児童生徒を認め、励まし、褒めるなどの評価を何度も行っています。評価を難しく捉えるのではなく、児童生徒の感性を大切に、学習に対する意識を高め、新たな「問い」を引き出し、学習意欲を高めることが評価の役割だと考え、実践を積み上げていきましょう。

こんな授業になっていませんか

- △ 「課題」「身に付けさせたい力」等が明確になっていないため、何を見取ればいいかが曖昧になっている。
- △ 教師の見取り（評価）の視点が「正解か否か」のみに偏っている場合がある。

○評価規準を明確にする。

「身に付けさせたい力」が明確でないため「知識・技能」を評価したいのか、「思考・判断・表現」の力を評価したいのかわからない授業を見かけることがあります。

事前にめざす子供の姿をイメージすることで、見取る視点（評価）を明確にしましょう。また、どんな場面で見取るかを設定することで、児童生徒に対する手立て（仕掛けや発問など）を工夫することができるようになります。

○児童生徒の資質・能力を伸ばすための評価にする。

「目指す子供の姿」も「評価規準」も明確に設定されていますが、「教える」という気持ちが先行しているため、授業中の指示や質問等で「〇〇を見て」「これがどうなる？」「そうそう。だから…になるよね」など、一問一答形式のように進めてしまう授業を見かけることがあります。

これでは、児童生徒が考えるのは「教師の意図する答えを探すこと」になってしまいます。こうした場面では、児童生徒自身で見方・考え方を働かせているのではなく、教師が動かしているだけになり、児童生徒自身で学び方を身に付けていることにはなりません。

どこに着目し、どのように考えるかを明確にもって授業を行い「どうして？」「なぜ？」など効果的な発問（問い返し）を用いることで、考えのよさや可能性を引き出しましょう。

こんな授業になっていませんか

- △ 授業中の児童生徒の学習状況を把握し、その後の授業展開に生かすことができていない。
- △ 机間指導が場当たりので、目的が定まっていない。

○学習状況を見取り、授業展開に生かす。

評価の意識が十分でなく、発言力のある一部の子供とのやりとりで授業が展開されていたり、一部の児童生徒につきっきりになり、全体の状態が見えなくなっていたりする授業を見かけることがあります。学級全体の学習状況を見ると、教師の発問の意図がつかめていない子、指示された作業を終えて時間をもてあましている子、一言も発言することなく黙々とノートを書いている子など様々です。学級全体の学習状況を適宜把握（評価）し、個々の考えを学級全体に広げたり、ペアやグループ活動を取り入れたりするなど、発言や表現の機会を適切に設け、児童生徒の思いや考えを見取れるような場や方法を工夫しましょう。その判断の手掛りは、机間指導を基本としましょう。

○目的をもって机間指導を行う。

児童生徒の学習状況を把握するためには、目的をもって机間指導を行わなくてはなりません。例え

ば、子供に問題等を提示した際に、学級全体の進捗状況を確認するのか、問題の解答の内容を確認するのかなどが考えられます。話し合い活動であれば、全員が話し合いに参加しているか、児童生徒がどのような意見を出しているのかを確認するなど、どの場面で何を評価するのか、などの意図を教師がしっかりもち、評価場面から子供の学習状況を見取り、授業展開に生かしましょう。

【机間指導でよく課題として指摘される内容】

- △ 児童生徒の反応の予想ができていないため、多様な思いや考えを拾うことができない。
- △ 多様な思いや考えを見取っているが事前の計画がされておらず、授業展開に生かされていない。
- △ 具体的に「何がよいのか」意味付け、価値付けされたフィードバックになっていない。

机間指導は「実態把握」「個別指導」「指名計画」等、その後の授業展開を大きく左右する重要な目的をもっています。そのため、事前に児童生徒の反応を予測し、それらの反応をどのようにして授業に生かしていくのかを計画しておくことが大切です。

指名する順番によって児童生徒の思考をつなげたり、共通点を見出す視点をつくったりすることもできます。また、矛盾を感じさせて「問い」を生み出すことも可能です。さらに、児童生徒の様々な「問い」や反応に対し、どのように「価値付け」し「承認」あるいは「励ます」のか考えておく必要があります。

こんな授業になっていませんか

- △ 児童生徒の反応が乏しく、見取ることが困難な場合がある。

○要因を明確にした対応を工夫する。

何が要因となって「反応が乏しくなるのか」を明確にする必要がありますが、このような児童生徒でも、復習や定着のためのプリント学習をすると集中して主体的に取り組む姿を見かけることがあります。ですから、どのような場面で児童生徒が安心してアウトプットできるかを見極めることも大切になります。そこを糸口にして、子供の考えのよさや可能性を見取ったり、間違いであっても「どうすれば間違いを少なくできるのか」を皆で考えたりするなど、しっかりと「価値づけ」で「承認」「励まし」を増やしていくことも改善策の一つです。大切なことは、安心してアウトプットできる環境づくりにあります。



指導計画（評価規準）に基づく確実な評価と授業改善

学習評価は成績を付けるためだけのものではありません。教師による指導の結果を評価し、評価を授業に反映させることが重要です。（指導と評価の一体化）

こんな授業になっていませんか

- △ 単元テストや定期考査の点数のみで評価している。
- △ 評価を授業改善につなげる意識が弱い。

○多面的・多角的な評価を行う。

単元テストや定期考査などのペーパーテストで測れる学習状況は一部にすぎません。児童生徒の資質・能力を多面的・多角的に評価していく必要があります。例えば、あらかじめ評価項目を設定しておきチェックリストで確認したり、児童生徒の思考過程がわかるようなワークシートを作成し理解度

の評価を行ったり、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の製作など、多様な活動に取り組み、パフォーマンスを評価したりするなどです。また、子供一人一人が、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりできるようにするために自己評価や児童生徒同士が相互に評価し合うことも重要です。教師は、子供たちが行っている学習にどのような価値があるのかを認め、子供自身にもその意味に気付かせていくことが求められています。

○評価を授業改善につなげる。

学習内容を確実に身に付けさせるためには、おおむね満足できる状況と判断されるものである「B評価」を設定し、本時の評価を授業改善につなげることが大切です。形成的評価により、各単元内の学習理解・習得の状況を把握し、その後の学習指導の改善に生かしましょう。総括的評価でも同様です。

評価は「子供が〇〇だから△△ができなかった」というものではなく、「〇〇の指導が徹底できなかったため子供に△△を身に付けさせることができなかった」という結果をもとに授業を工夫したり、個別の支援を行ったりするなど、日常の指導の中で評価が学習指導の改善に生かされていることが重要です。

今日は目標に達した子供が半分しかいなかったな・・・
次の時間は〇〇を工夫しよう。



発問

～「問い」を引き出し「主体的に取り組む」態度を育てる発問にするために～

学習のねらいに迫る意図的・計画的な発問

発問は、児童生徒の思考や活動、主体的な学習態度を促すとても大切なものです。優れた発問は、児童生徒の学習意欲を高め、学習のねらいに迫り、課題解決を促す最も重要な教師の働きかけです。授業展開や思考の流れを意識した意図的・計画的な発問を工夫することで、児童生徒の「問い」や主体的な学びを引き出しましょう。

こんな授業になっていませんか

- △ 柱となる発問が設定されておらず、一問一答的な質問を繰り返しながら授業が進んでいる。
- △ 同じような発問を繰り返したり、発問後に付け足したりするなど、発問が練られていない。

○学習のねらいに迫る計画的な発問の工夫

単なる知識や経験を聞いたり、「はい」「いいえ」で答えられる単純な質問や一問一答形式の繰り返しではなく、学習のねらいに迫る柱となる発問を設定し、課題解決に向けた主要な発問と補助的な発問を組み合わせるなど、児童生徒の「問い」や主体的な学びを引き出す発問計画を立てましょう。

○簡潔で焦点化された発問の工夫

十分に練られた発問は、児童生徒の思考や活動を促すだけでなく、集中力や学習意欲の向上にもつながります。同じような発問の繰り返しや、児童生徒が思考中に付け足しをすることがないように、内容や表現を十分に練り上げ、簡潔で焦点化された分かりやすい発問を工夫しましょう。

思考を広げ、深める発問の工夫

各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる発問を工夫することで、児童生徒が物事を捉える多様な視点を持ち、多面的・多角的に考えたり、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、新たな「問い」を見いだして解決策を考えたりする学習を促しましょう。

こんな授業になっていませんか

- △ 各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる発問が意識されていない。

○「見方・考え方」を働かせる発問の工夫

「見方・考え方」を働かせる発問を工夫することで、思考が広がり深まっていきます。

〈社会的事象の見方・考え方〉～小学校社会～

社会的事象を位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係に着目して捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること。

〈見方・考え方を働かせる発問例〉

・工業がさかんな地域は、なぜ、海沿いに多いのだろうか。

○学習過程や授業展開を意識した発問を工夫する

学習過程に応じた発問を工夫することで、思考を広げ深めていくことができます。

学習過程	発問の働き	発問の例
導入	興味・関心をもたせ学習意欲を高める ・実物・写真などの具体物を提示し、「問い」を引き出す ・予想させることで見通しをもたせ、主体的な学習を促す	・〇〇について気付いたことは何ですか ・〇〇を解決するにはどうすればよいと思いますか
展開	課題解決に向けて個人の学習・交流活動を充実させる ・多様な考えを引き出したり、思考を揺さぶったりする ・異なる立場で対話をさせたり、協力して課題を解決させたりする ・根拠や理由に基づいて思考・判断・表現させる	・〇〇は本当に正しいですか ・Aは〇〇なのに、Bは△△なのはなぜですか ・〇〇と考えた理由は何ですか
まとめ 振り返り	学習をまとめ整理したり、学習の価値付けをしたりする ・「課題」に正対した「まとめ」を文章等で表現させる ・学習過程や今後の学習と関わらせて振り返らせる ・社会や生活、自分自身とのつながりを意識させて振り返らせる	・今日、出来るようになったことや、次に頑張りたいことは何ですか ・〇〇について、もっと調べたいことはありませんか

板書・ノート、1人1台端末 ~児童生徒が思考を整理し考えを深めるために~

思考を整理し考えを深める構造的な板書・ノート指導

こんな授業になっていませんか

△ 板書計画がなく、場当たりの板書をしている。

学習内容の共有や理解を図り、子供たちの思考活動を助ける重要な教具が黒板です。教師の板書は、学習内容の理解や意欲に大きく影響します。学習効果がより高まるような板書を心がけましょう。

○子供の思考の流れが見える構造的な板書を

課題や問題・答えだけでなく、子供たちの気づきや「問い」、考え方、話合いの視点などを板書に残し、子供たちが1時間の授業（思考）の流れが見える構造的な板書にしましょう。そのためには、授業展開から子供の反応を予想し、板書の計画を立てましょう。字の大きさやチョークの色を使い分けたり、学習内容と子供の考えを吹き出しや矢印などで関連付けたりするなど板書を工夫することで、より思考の流れが見える板書になります。また、教師の授業の振り返りで板書計画や授業板書を活用することは、授業力の向上につながります。

こんな授業になっていませんか

△ 子供たちのノートの現状を把握できていない。

△ ワークシートの活用が子供たちの思考の広がりを制限している場合がある。

子供たちにとってノートは最も身近な学習用具の一つですので、有効に使わせることが必要です。「板書を写す」「言われたことを書く」だけのノートから、子供が自らの書き方や内容などを工夫して、書くことの楽しさを味わい、今後の学習に生かせるようなノート指導を行いましょ。

○継続的なノート指導を

ノート指導は、年度初めの指導だけでは終わりません。ノート指導は、定期的に子供たちのノートの状況を把握し、評価や助言をすることが大切です。また、ノートづくりのためのノート指導ではなく、子供たちにとって学習の理解が深まり、定着に役立つよう指導を行いましょ。

○授業のねらいや展開に即したワークシートとノートの活用を

ワークシートは、時間の短縮や記述内容を焦点化できる良さがあります。一方、ノートでは授業展開が子供たちに驚きや新鮮さを与えたり、意見や考えに多様性をもたせたりする良さがあります。

本時のねらいや授業展開を吟味し、ワークシートとノートのどちらを活用するか判断しましょ。

1人1台端末の日常的・効果的な活用

1人1台端末を日常的に活用することで、子供の情報活用能力の育成を図ることができます。また、各教科においては、思考力・判断力・表現力等の資質・能力を育成したり、学びの蓄積により学び・育ちを実感したりすることもできます。1人1台端末の日常的・効果的な活用を心がけましょ。

こんな授業になっていませんか

△ 1人1台端末を活用する授業や場面が1日に1度もない日がある。

○1人1台端末を日常的に活用し、情報活用能力の育成に努める

言語能力、問題発見・解決能力と並ぶ「学習の基盤となる資質・能力」の一つである情報活用能力を育成するため、子供や学校の実態に応じ、1人1台端末を日常的に活用する場面を設定する必要があります。タイピング練習やAIドリル、調べ学習、写真・動画・音源教材の活用、情報モラル指導など、児童生徒の情報活用能力の向上のため、1人1台端末を日常的に活用していきましょう。

○思考力・判断力・表現力等の育成や学びの蓄積の振り返りに活用する

子供の思考の可視化・共有・表現のツールとして1人1台端末を効果的に活用することで、思考力・判断力・表現力の育成につなげることができます。また、自分の学びをデータとして蓄積することでいつでも振り返ることができ、学び・育ちの実感や、主体的に学習に取り組む態度を育成することにもつながります。

授業改善チェックシート

本時の目標を踏まえた学習課題を設定し、児童生徒に分かりやすく示している。 (課題設定)

児童生徒が学習の内容や方法を見通すことができる場面を設定している。 (見通しの質)

児童生徒の多様な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問をしている。 (発問計画)

課題の解決につながる学習活動を設定し、目的に応じた学習形態を取り入れている。 (学習形態)

課題に正対するまとめを行い、振り返りの場面で学習内容の定着を図っている。 (まとめの質)

全ての児童生徒が概ね満足できる状況に達するよう、評価基準に基づき適切に指導している。 (子供の変容)

これまでの実践とICTを適切に組み合わせ、有効に活用している。 (ICTの活用)

〈評価の観点〉

◎・・・十分に達成している

△・・・改善点が見られる

○・・・おおむね達成している

×・・・不十分である